

氏名： 永瀬 伸子 (NAGASE Nobuko)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 博士 (経済学) (1995 東京大学)
職名： 教授
専門分野： 労働経済学、社会政策
URL： http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Nagase_Results.html
E-mail： nagase.nobuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

女性労働 / 賃金構造 / 家族形成 / 社会的保護
Female Labor Supply / Wage Structure / Family Formation / social Protection

◆主要業績

総数 (9) 件

- 永瀬伸子 (2008) 「女性の就業をめぐる状況：90年代後半の雇用流動化と規制改革はどう女性労働を変えているのか？」 宮本みち子・船橋恵子編『雇用流動化の中の家族』ミネルバ書房 55-76頁 全198頁
- 永瀬伸子 (2007) 「少子化にかかわる政策はどれだけ実行されたのか？保育と児童育成に関する政策の課題」財務省財務総合政策研究所編『フィナンシャル・レビュー』第87号 3-22頁
- 永瀬伸子 (2007) 「若年・子育て世帯の所得分布と課題 —平成19年就業構造基本調査が捉える構造変化」『統計』58巻7号
- 永瀬伸子 (2007) 「正社員と非正社員のリスク」橘木俊詔編『リスク学入門2 経済学からみたリスク』岩波書店 123-145頁。全178頁
- 永瀬伸子・御船美智子編『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 中国パネル調査 第4年度報告書』2008年2月 F-GENS Publication Series 29

◆研究内容 / Research Pursuits

1. ソウル、北京のパネル調査を用いた仕事と家族形成の研究。日本と2カ国とを対比した。
2. 第12回出生動向基本調査を用いた結婚および出産タイミングの研究、および結果の北京・ソウルとの比較
3. ドイツの雇用政策、特にパートタイム労働に関する政策のサーベイ (Heinrich氏とともに)
4. 労働力調査を用いた労働市場の変化と安定雇用・不安定雇用の研究 (継続中)

◆教育内容 / Educational Pursuits

「労働経済学」「社会保障論」「労働経済学演習」「労働論」等を大学、大学院で教えています。まずは標準的な労働経済学の講義をしています。雇用と労働時間、失業と職探し、離転職や引退、労使関係、雇労働者保護の制度などについてです。「労働経済学各論」は通常はテーマを決めた授業をしますが、今年は2年生の受講が多かったので企業での聞き取りを中心としたもう一つの労働経済学分野についての標準的な講義としました。社会保障論は家族と社会保障について考えます。大学院は主指導の修士学生が5名、研究生が2名で今年はいく方であり活発な参加の中、多様な分野の論文を読みました。博士は研究発表を中心とした授業を持ちました。また東京労働大学では企業の人事部等のサラリーマンを相手に女性労働の現状について講義をしたり、総務省統計研修所では統計を用いた計量分析の講義をしたりすることはほぼ毎年しています。

I teach different level of classes for Labor Economics and Social Policy. Spring courses in general covers various topics in Labor Economics, such as employment, unemployment, job search, job turnover, while relating to institutional aspects of labor in Japan, such as labor union, changes in wage policies at various companies, increase in non-standard employment, changes in law regarding to work rules and coverage of social protection.

I had a course of labor economics for masters' students. I am a member of COE Program of 21st Century, and am conducting panel survey in Beijing and some of the results were also introduced at the class. I also had seminars for doctorate students.

◆研究計画

COE ジェンダー研究のフロンティアで、北京およびソウルのパネル調査の実施にかかわっていますので、これらの他の東アジア諸国の女性労働と家族とのかかわりを日本と対比し、さらに欧米諸国と対比した上で、社会的保護の制度のあり方について考察したいと考えています。その際には少子化、家族、労働供給、社会保障などをキーワードとします。また労働組合の研究ももう少しすすみたいと考えています。

◆メッセージ

女性が働くことと、社会的な制度のあり方、さらには社会規範や家族のあり方は深くかかわっています。仕事と家族の両立支援策は、1990年代から行われているように見えますが、なぜ実効を伴わないのでしょうか。なぜ日本の女性の出産離職は今でも大変高いのでしょうか。そのメカニズムについて考察するには、一方では、社会への洞察が不可欠です。具体的には、企業の賃金制度や雇用慣行、法律の枠組み、税制や社会保障制度などです。その一方で、文化的な土台や家族の価値規範の研究も必要です。制度を調べ、聞き取りをし、大勢の人々の選択行動のデータを計量的に分析することで、要因を明らかにするのが私の研究です。私の属する講座や大学院のコースには、この問題を考える幅を広げるに良い学際的な土壌があり、この問題を真摯に考える人には良い場所を提供すると思います。